

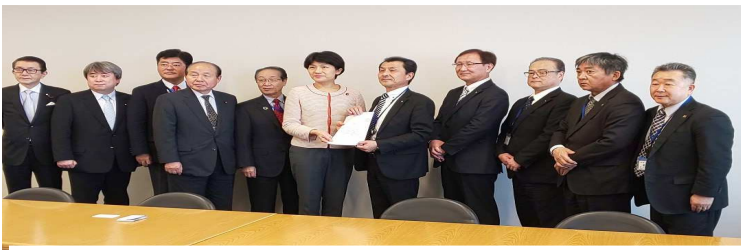
JR九州は公共交通の責任を果たすべき!

二〇一七年七月に日田彦山線が被災し二年半が経過をしました。未だに「添田く夜明間」復旧がなされていません。この間鉄道での復旧を基本として鉄道復旧会議、JR九州・添田町・東峰村・日田市・大分県・福岡県）が5回にわたり開催されてきました。鉄道での復旧が前提であったはずが、JR会社側から、鉄道の場合には、鉄道維持費として沿線自治体に年間一億六千万円の負担を求めるといって、たまたま平行線のまま推移してきています。

二月十二日の第5回復旧会議で①鉄道②バス③BRTによる復旧案が示されて、東峰村を除いてBRTを受け入れるような報道が出されるなど事態は大きな局面を迎えています。この会議では東峰村が大きく反発し、議の受け取りを拒否し、また村が行う車道橋の復旧費用に対し一メートル当たりで三・八倍から六・八倍試算が高いとの疑義も出されてきました。

JR九州は当初から「災害が大きく始めから鉄道を引くようなもの」として鉄道での復旧に難色を示してきました。しかし、JR九州の完全民営化法案の審議のさい国会参考人質疑において「鉄道のネットワークの維持は当社の重要な役割」想定され

日田彦山線の鉄道での早期復旧を!



3月3日国労中央総行動での政党要請（立憲民主党要請）

JR九州は、株式上場時に「安定基盤」を謳い、七億円のネットワークを維持し、二億円の費用を現在も二〇七億円の残っています。その一部を田彦山線の復旧に投入するは

る災害対しては予算上、災害対策の経費を見越しており、土木構造物保険等による備えもある」と答弁してきました。また当初復旧費として七〇億円を試算していましたが、その後の県や自治体負担で五十六億円まで軽減され、改正された「鉄道軌道法」の支援を受ければ、二十八億円まで軽減されることが明らかとなつていきます。また、橋梁などの架け替えが無い場合は、十七億円まで大幅な圧縮が出来る可能性まで試算されています。

ずです。こうした多額の税金を投入して上場した経緯がある以上、公共交通機関としての責任を果たす義務があります。国労はこの間二度の東峰村との懇談、九州運輸局要請、国会議員要請、政党要請など行い、日田彦山線の早期復旧が実現出来るように運動を行ってきました。この三月には結論を出すための動きがあり重大な山場を向かえることとなります。沿線自治体が望む鉄道での復旧を強く望みます。

〈生きるためのがん保険Days1〉スタンダードプラン入院給付金日額10,000円 保険期間:終身(抗がん剤・ホルモン剤治療特約) (がん先進医療特約)は10年更新		●契約年齢:0歳~満85歳まで●	
診断 一時金として	それぞれ1回限り がん 50万円 上皮内新生物 5万円	手術	1回につき 20万円
特定診断 一時金として	1回限り がん 50万円	放射線	1回につき 20万円
入院	1日につき 10,000円	抗がん剤・ ホルモン剤	治療を受けた月ごと 10万円 (給付率2割) 5万円 (給付率1割)
通院	1日につき 10,000円	がん 先進医療	がん先進医療給付金 1回につき 先進医療にかかる技術料のうち 自己負担額と同額 がん先進医療一時金 1回につき 15万円
		再発治療の 費用化	1回につき 50万円 上皮内新生物 5万円
		特定保険料 払込免除	免状事由に 該当後の保険料は いただきません。

■専集代理店 (アフラックは代理店制度を採用しておりません)
アベニール株式会社
〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3階
TEL.03-3437-6810 FAX.03-3437-6822

〈引当保険会社〉
「生きる」を創る。
Aflac

アフラック
東京第二法人営業部
東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル19F
TEL.03-3344-1429 FAX.03-3344-2059
AFLAC 東京 2017-5036 1月12日